木田市長の

どーんとコミュニケーション

Vol.121

「南海トラフ地震の不気味な沈黙」

前回のコラムで鳥羽の気候が他の地域と少し違うということを書きましたが、4月1日に発生した熊野灘を震源とする地震では、地震の揺れも、鳥羽周辺では他とはちょっと違うなと感じました。この時は緊急地震速報がスマホなどを通じて発信され、驚いた方も多かったのではないでしょうか。私たちも身構えて、揺れが来るのを待ちましたが、揺れを全然感じませんでした。

ところがニュースでは鳥羽周辺の市町は軒並み震度が記録されていました。鳥羽地域だけがぽっかりと穴が開いたように記録されていない状況でした。以前から、鳥羽市の地震計は揺れの少ないところに設置されているのではないか、という声がありました。

しかし、今回の地震で、条件にもよるでしょうが、鳥羽地域の揺れそのものが小さいという希望的な観測が出て来たのではないでしょうか。もちろん、このことが油断につながってはいけませんが、希望、安心という意味では価値があるように思います。

それにしても、緊急地震速報の発達には驚かされます。地震が来る前に知らせてくれるという、昔では考えられない夢の技術です。たとえ数秒であっても、心構えがあるのとないのでは雲泥の差と言えると思います。この技術は、地震の縦波と横波の伝わる速さの差を活用しているわけですが、震源地が近い場合は速報が間に会わず、地震の方が先に来てしまうということになります。まだまだ発展途上の技術でしょうが、将来は地震発生の数時間前あるいは数日前に予知できるようになるかもわかりません。

さて肝心の南海トラフの地震ですが、大変心配されています。東日本大震災以来、日本各地で地震が起き、火山の噴火も、御嶽、箱根、桜島、小笠原など東海地方を取り巻くかのごとく発生しています。この間、東海地方では不思議なくらい鳴りを潜めていましたが、この四月の地震がいよいよ起こりました。不気味な沈黙が破られたような気もするところです。地震の前兆にならなければよいがと考えるのは私だけではないはずです。

しかしながら、揺れが小さいだろうと喜んだり、大地震の予兆だと心配したりと、一喜一憂していてもどうにもなりません。技術の進歩を期待しつつ、今、私たちができる準備をしっかりやることこそ大事なことであると思います。

いずれにしましても熊本で発生した地震が早く終息に向かい、他の大地震に繋がらないことを望むところです。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.148

全国中学生人権作文コンテスト

法務省と全国人権擁護委員連合会では、「日常の家庭生活や学校生活等の中で得た体験」に基づく作文を書くことを通して、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けることを目的に「全国中学生人権作文コンテスト」を実施しています。

各都道府県単位で実施された地方大会で選ばれた代表100作品から各入賞作品が決定されます。

平成27年度（第35回）では、7，584校の中学校（特別支援学校を含む）から973，865作品という過去最高の応募がありました。

このうち「いじめ」に関する作文が30.3％と最も多く「いじめ」が極めて身近で重大な人権問題として認識され、深刻な状況にあることがうかがえます。

三重県大会では、160校、38，583作品の応募があり、「いじめ」を取り上げた作品が全体の4割を占める結果となりました。そのほか「障がいのある人に関する問題」をはじめ、戦後70年ということもあり、「戦争と平和」をテーマとしたものも多くありました。

日々の学校や家庭生活の中で感じたこと、心に強く思ったことなどが書かれた人権作文には、等身大の中学生が垣間見えます。また、中学生ならではの視点や感性には、多くの大人たちが忘れてしまった、まっすぐで力強い思いが感じられます。

一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

小冊子は市民課窓口、図書館にあります。また、電子版は総務省ホームページにてご覧いただけます。

URL http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken111.html